

博物館と大学Ⅱ

—災害から文化財を守る—



「はくぶつかんまつり」のロウソク天の川（参加した子どもの作品）

名古屋市立大学（人間文化研究所）は二〇〇九年度より名古屋市博物館との連携事業を進めて参りました。その一環として、昨年度は「博物館と大学がつくりだす魅力あるまち―市博物館と市立大学の新しい取り組み」をテーマに、様々な活動を行いました。

人間文化研究所が開設七周年を迎えた二〇一一年度は、東日本大震災の衝撃のもとで始まりました。博物館と大学との連携を考える上で、市民の貴重な文化財を守るために大学と博物館が何をすべきかを検討する必要があることに直面しました。「文化財を守る―東日本大震災の教訓から―」と題する講演会・シンポジウムの開催はその答えを模索する試みでした。東日本大震災被災地において文化財の復興に携わっておられる藤原徹東北芸術工科大学教授をお招きし、まず被災文化財の救済をめぐる基調講演を行っていただきました。そして、それを受けて「東海大震災に備えるには」という観点から意見交換するシンポジウムも行いました。今号は、この講演とシンポジウムを誌上で再現し、関連する寄稿と併せて特集を構成いたしました。